



CASE
4
平成 25 年度

株式会社曙産業
アイデアと技術への探求心で
新商品を生み出し続ける



ABOUT
私たちについて

創意工夫で日常を楽しむ
アイデア商品を生み出す

1952(昭和27)年創業の曙産業は、プラスチック製キッチン用品をはじめ、生活に密着したアイデア商品を製造販売するプラスチック総合メーカー。平成12年発売の「ダブルエンボスしゃもじ」は販売本数4,000万本超、平成20年発売の「サンドでパンだ」は200万個超の大ヒット商品と、遊び心をくすぐるアイデア商品を毎年発表している。商品企画から設計、モデル製作、金型製造、成形、二次加工、組み立てに至るまですべてを社内一貫生産していることが特徴。



START
事業の背景

高付加価値商品のみで
使われていた成形技術を応用

プラスチック製品は金型に素材を射出することで成形する。その際に、内部が空洞になった、例えば金魚鉢のような形をした製品は、2つ以上の部品を接合して成形する。ダイスライディング・インジェクション(DSI)成形は、金型の中で2個の部品を合体させて一度に成形する技術。これにより、部品を別々につくり接合する工程を一度に行うことができる。曙産業は、自動車部品などの高付加価値製品でのみ使われていたこの技術を、家庭用雑貨に応用できないかと思案し、ものづくり補助金を活用した。



ACTION
取組の内容

新技術で
次々と商品をリリース

DSI成形技術を用いて最初に開発したのは、酢飯を型に詰めて下から押し出すと、寿司下駄の上にお寿司が現れるアイデア商品「とびだせ! おすし」。汎用射出成形機では不可能な複雑形状の製品を低コストで生産することに成功。これまでに約4万個を販売した。また、従来の超音波接着では接合部が白濁したり、強度に問題があったが、DSI成形では見た目・強度ともに大きく改善される。その特性を活かして開発した、コーヒーマーサーバーやティーポットは、ガラス製品に近い透明度を実現した。



FUTURE
今後の展開

情報のアンテナを高く、
新しい一歩を踏み出し続ける

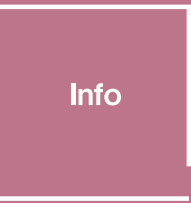
今回実用化した技術で発売した製品は、同業者からは「どうやってつくったのか?」と驚かされている。複雑な成形の効率化に成功したことで「前より軽くしたい」「割れないものがほしい」といったニーズに答えることができるようになった。自社開発商品はもちろんOEM商品

についても対応可能な幅も広がったと思う。製造業は、製造設備に投資することが大切。設備があると知恵が出て、思わぬ商談もまとまったりする。常に現状が全てではないと思い、情報感度を高くし、変化していく姿勢を大切にしていきたい。

組織を維持していくには、攻めながら守ることが大切。常に市場の隙間を探していきたいです。



代表取締役
大山 剛氏



■ プラスチック製日用雑貨製造業

株式会社曙産業

住 所	新潟県燕市南一丁目2番11号
T E L	0256-63-5071
U R L	https://www.akebono-sa.co.jp/



会社 HP